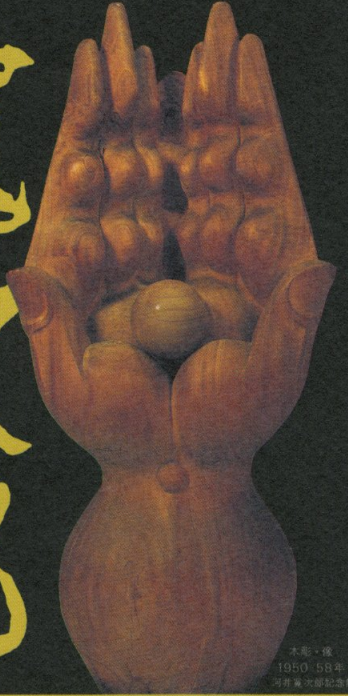


ふたりの木彫



木彫・像 1950-58年
千葉県立歴史記念館蔵

河井寛次郎

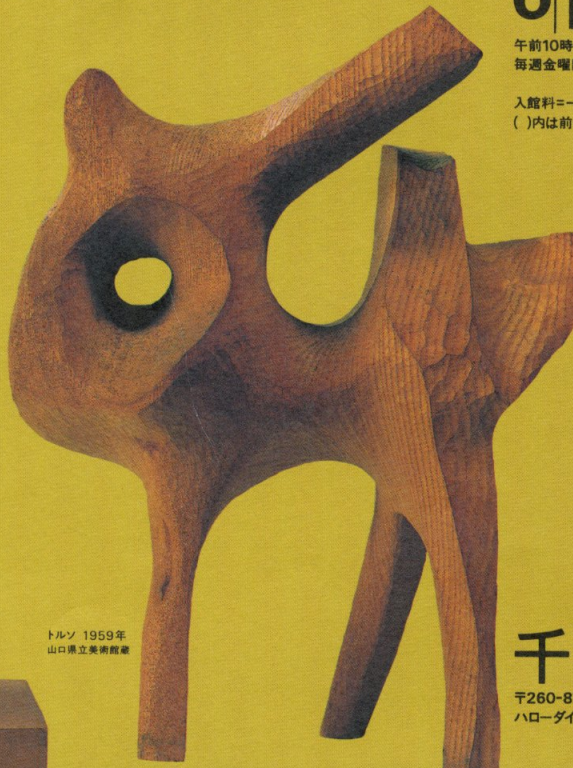


木彫・像
1950-58年
河井寛次郎記念館蔵

植木茂



子ども 1963年頃
千葉市美術館蔵



トルソ 1959年
山口県立美術館蔵

6/12(火) → 7/29(日)'01

午前10時-午後6時【入館は5時30分まで】
毎週金曜日は午後8時まで【入館は7時30分まで】 月曜日休館 主催=千葉市美術館

入館料=一般 800円(640円) 高校・大学生 560円(450円) 小・中学生 240円(200円)
()内は前売/団体30名以上の料金【入館料は消費税込み】

千葉市美術館

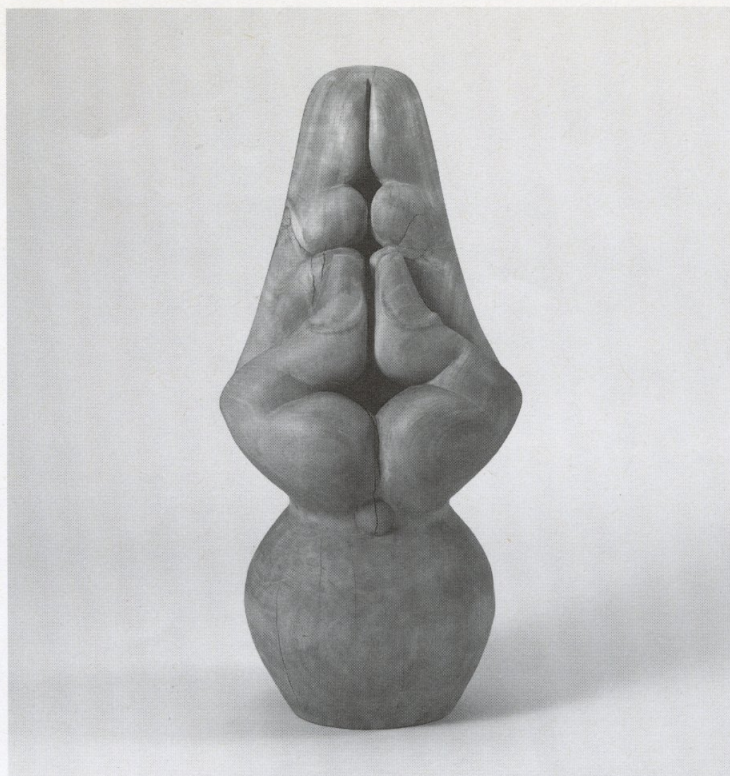
〒260-8733 千葉市中央区中央3-10-8 Tel.043-221-2311
ハローダイヤル 043-227-8600 ホームページ <http://www.city.chiba.jp/art>

日本の彫刻には、古くから木が素材として用いられています。それは作り手のイメージを表現するためだけの、身近で便利な素材として用いられているだけではありません。木との対話を重ねることで独特の造形を導き出しています。そして、作り手たちが行った対話の記憶は、さまざまなかたちで次の時代に受け継がれることを繰り返し、彫刻のあゆみを形成しています。

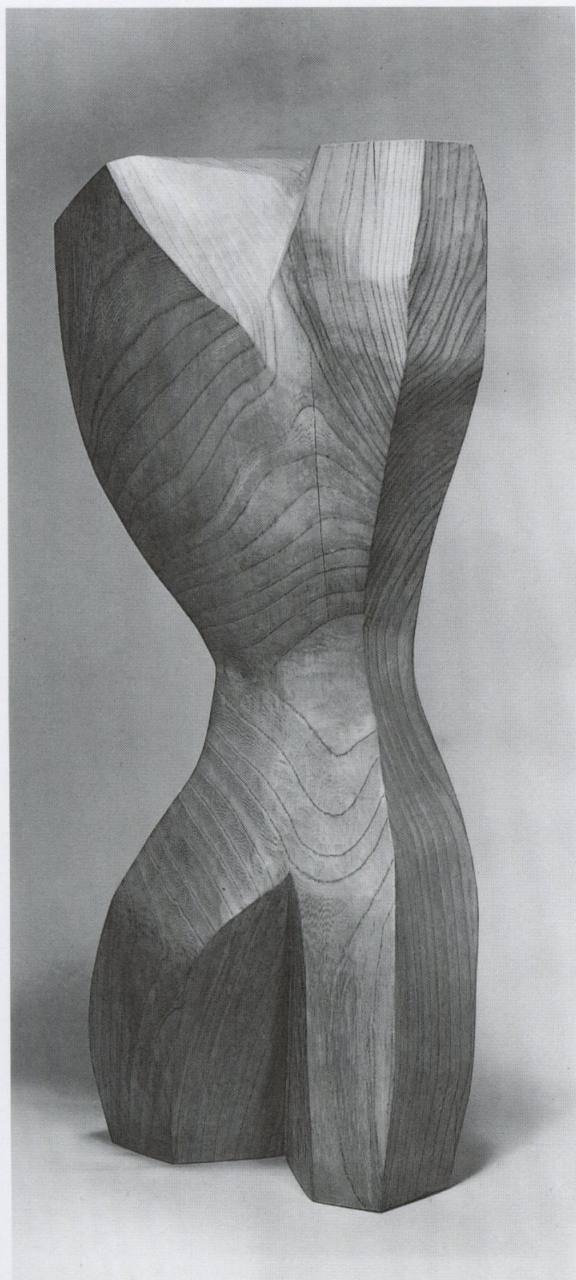
陶芸家・河井寛次郎(1890-1966)は、初期には中国古陶磁の研究を踏まえ、高度な技術を駆使した陶芸作品で知られていましたが、柳宗悦や学友だった濱田庄司との交流から民藝運動と出会い、独自の世界を展開することになりました。河井はその生涯において、陶の他にもさまざまな表現をこころみしています。なかでも木彫は1950年から本格的に取り組み、晩年の制作活動において陶とならぶ重要な位置を占めています。

彫刻家・植木茂(1913-84)は、当初洋画家を目指していましたが、1935年に訪れた唐招提寺で大日如来が結ぶ印に魅せられて彫刻の道に進むことを決意します。37年には当時の日本では作例が少なかった抽象彫刻を発表。彫刻については全くの独学ながら、主に木を素材として抽象的フォルムの探究を一貫して行い、わが国の彫刻に新たな世界を加えました。

河井寛次郎と植木茂。共に同時代のアーティストでありながら活動領域が異なるふたりの木彫は、しかしそのフォルムや造形思考に共通する点を見ることができます。本展はふたりの木彫を中心に、関連作品や資料などもあわせて紹介し、現代における木彫の一傾向だけに止まらず、現代の造形に息づく伝統的なものへのありかを問うこころみです。



河井寛次郎《木彫・像》1950-58年 河井寛次郎記念館蔵



植木茂《作品》1954年 東京国立近代美術館蔵



植木茂《仏頭》1955年 千葉市美術館蔵



河井寛次郎
《木彫・面》1958-61年
河井寛次郎記念館蔵

記念講演会「河井寛次郎の木彫」

講師：諸山正則(河井寛次郎研究家)
日時：6月23日(土) 午後2時より
会場：千葉市美術館・11階講堂
※先着順に 150名まで受付

同時開催

千葉市美術館新収蔵作品展
6月12日(火)ー7月29日(日)

「友の会」ご入会の案内

企画展・所蔵作品展の入場は無料。そのほか、図録の割引などの特典がございます。ぜひご利用ください。
入会は、美術館受付に備えてある「入会申込書」でお申し込みください(休館日はお申し込みできません)。
くわしくは、美術館(tel.043-221-2311)までお問い合わせください。

千葉市美術館
〒260-8733 千葉市中央区中央3-10-8 tel.043-221-2311
URL: <http://www.city.chiba.jp/art>

JR東日本千葉駅利用

- 東口より徒歩約15分
- 京成バス大学病院・南矢作行(のりば⑦)「大和橋」下車徒歩2分
- 千葉都市モノレール県庁前行「霞川公園」下車徒歩5分

京成電鉄千葉中央駅利用

- 東口より徒歩約10分

※来館者用駐車場は少ないので、自家用車での来館はご遠慮ください。

